

日本航空と包括連携協定を締結

3月17日(火)、大洲市は日本航空(株)と包括連携協定を締結しました。観光・産業振興や持続可能なまちづくりなどの分野で連携し、欧米やオーストラリアをターゲットとしたプロモーションをはじめ、首都圏や関西圏での販路機会の創出、二地域居住の促進などに取り組めます。

市役所で行われた締結式では、日本航空(株)の宮坂久美子西日本支社長が「大洲を第二の故郷として愛してくれるファンを増やしたい」と話し、二宮市長は「日本航空のネットワークを活用して国内外から誘客を促進し、都市と地域をつなぐ継続的な交流の仕組みを作りたい」と述べました。



地域おこし協力隊員が活動を報告

3月27日(金)、市役所で地域おこし協力隊の活動報告会を開催しました。当日は、中村佑太隊員と川崎倫央隊員が、これまでの活動や今後の目標について報告しました。

今年が最終年となる中村隊員は、着任以降、農作物の栽培やタコスの販売などに取り組んできたことを紹介。「今年は退任後を見据えた活動にも力を入れていきたい」と市内での起業に向けた意気込みを語りました。



トイレカー相互派遣で助け合い

3月31日(火)、「自治体トイレカー災害時相互派遣に関する協定」のオンライン締結式が行われました。

今回の協定には新たに6自治体が変わり、参加自治体は全国15市町となりました。トイレカーは機動性に優れ、災害時には避難所などへ迅速に配置できるのが特徴です。今後もトイレカーを所有する自治体への呼びかけを進め、広域での支援体制のさらなる強化を目指します。



新しい地域おこし協力隊員が着任

4月1日(水)、新たな地域おこし協力隊として着任した米井寛隊員の辞令交付式があり、二宮市長から辞令が手渡されました。米井隊員は京都府出身の47歳。父親が長浜町青島出身という縁もあり、大洲市の地域おこし協力隊に応募しました。

今後は柳沢コミュニティセンターを拠点に活動し、情報発信などを通じて地区の活性化に取り組めます。大阪で16年間、保険代理店を営んでいた米井隊員は、「これまでの経験を生かして柳沢地区に貢献したい」と抱負を語りました。



きりめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急



地域活性化起業人が着任しました

4月1日(水)、総務省が推進する「地域活性化起業人(企業人材派遣制度)」を活用し、風のヘリテージ(株)から北垣亮^{りょう}さんが大洲市役所に着任しました。

北垣さんは着任前、「NIPPONIA HOTEL 大洲城下町」で団体受入業務などを担当。これまで培ったノウハウや経験を生かし、今後は商工観光課の一員として、本市の観光まちづくりの推進に取り組むことになっています。



自慢のタケノコを出品

地元の独自ブランド「朝霧筍^{あさぎり}」の品評会が4月3日(金)、たいぎ産直市「愛たい菜」で開かれました。

大洲市は、県内有数の孟宗竹^{もうそうちく}が分布するタケノコの産地で、この日は南久米や柳沢、新谷の各地から生産者15人が出品し、井上晃一^{こういち}さん(新谷町)のタケノコが最優秀賞に輝きました。

審査終了後、出品されたタケノコは手ごろな値段で販売され、訪れた人たちは並べられたタケノコを見定めながら買い求めていました。



鉄道模型が大集合 博物館で特別企画

3月29日(日)と4月5日(日)の2日間、市立博物館で春休み特別企画「鉄道模型が走る！」がありました。当日は、地元の愛好グループ「鉄道模型クラブ西瀬戸」の協力のもと、新幹線や四国を走る列車など、さまざまな鉄道模型が会場を走行。精巧に再現された車両がレールを駆け抜ける様子に、来場者は見入っていました。鉄道模型の操作体験コーナーも設けられ、子供たちは楽しそうに模型を走らせながら、鉄道の魅力を体験していました。



園児が肱川へ稚アユを放流

毎年6月1日のアユ漁解禁を前に肱川漁業協同組合が行う恒例の稚アユ放流事業が4月21日(火)から始まり、5月末まで6回に分け、肱川本流・支流、小田川、中山川へ計2,260キログラム(28万尾相当)が放流されました。

放流初日の21日は、逆なげ橋上流右岸側(菅田町菅田)で地元の菅田こども園児13人が、大きく育てと願いを込めて、体長7cmほどの稚アユを元気よく放流しました。